

米倉脊椎・関節病院

(東京都足立区)

脊椎・関節疾患の患者を 急性期から回復期まで 一貫して診る

整形外科領域のなかでも、脊椎と関節に特化した専門病院として、2012年2月に開院した米倉脊椎・関節病院。治療対象を絞ることで、質の高い医療を効率的に提供することにこだわっている。自院の急性期患者を併設の回復期病棟で継続的にケアすることで、患者のADLの獲得、QOLの向上、さらには、健康寿命の延伸をめざしている。

撮影：関口宏紀



「発症5～10年前の健康状態」に戻すことを目標にリハビリテーションに注力する。リハビリテーション室は7階フロアすべてを使い、160㎡を超える広さを確保した



1階の総合受付。シンプルなデザインでジャズが流れる落ち着いた空間となっている



2階の外来待合は、広く大きな窓をとり、陽光が差し込む明るい雰囲気だ



「病院らしくない病院」をコンセプトに掲げる米倉院長



病院カフテンス、スタッフのカラーは「ブルー」は、まさに「病院らしくない病院」

治療対象を「脊椎」と「関節」に絞り
良質な医療を効率的に提供したい

エントランスを入ると、ホテルのロビーのような空間が広がり、待合ラウンジに流れるBGMはジャズ。8階建ての施設内は、回復期病棟は暖色系、一般病棟は寒色系というようにフロアごとに内装カラーが変えてあり、しゃれた雰囲気がある。「病院らしくない病院」をコンセプトに掲げている米倉院長は、患者やスタッフが気持ちよく過ごせる場にこだわったという。

病院の名称には、あえて「脊椎」と「関節」を入れた。「整形外科における医療は、骨折などの外傷と、脊椎と関節の疾病に二分されますが、多くの整形外科では両方とも治療対象にしています。これに対し、脊椎・関節疾患に特化して、質の高い専門医療を効率的に提供したいという強い思いがありました」(米倉院長)

めざす医療は、患者の健康寿命の維持・延伸を図ることという。「具体的には、脊椎などの手術を受けた患者さんを、発症前の状態ではなく、発症より5～10年前の健康状態に戻すことを目標にしています。そのためには、術後の十分なケアと継続的なリハビリテーションが重要です。特に、当院のある足立区周辺は高齢者が多く、患者さんのなかにも回復に時間がかかる人が少なくありません。術後の患者さんのケアまで責任を持ちたいと考え、回復期リハビリテーション病棟の設置は不可欠でした」と米倉院長。現在、62床ある病床のうち、40床が

回復期リハビリ病棟となっている。

スタッフを大切にすることが
患者を大切にすることにつながる

回復期医療に力を入れている米倉脊椎・関節病院では、リハビリテーションの環境も整っている。7階は、160㎡を超えるフロア丸ごとがリハビリテーション室。明るく開放的な空間で、大きな窓からの眺めも抜群だ。室内には重心動揺計や歩行解析システムなども揃っている。しかしこうした機材よりも、総勢15人へのほろリハビリスタッフのほうが目をはきく。「機械まかせのリハビリをするつもりはない」と断言する米倉院長。良質なリハビリの実現には、ハードよりも、ソフト、が肝心と考えており、キャリアを積んだ理学療法士、作業療法士を充実させている。

「人を大切にする」精神から、病院スタッフへの配慮も欠かさない。各スタッフフリーステーションには大型モニターが設置されており、誰でも手術の様子をリアルタイムで見ることができ、スタッフは医療について幅広く学べる機会を設け、レベルアップを後押しする。

また、スタッフは全員、午後5時半には帰宅させることにしているという。「長時間労働や忙しすぎる職場では、スタッフの精神状態も悪くなり、質の高い医療を提供することが難しくなります。スタッフを大切にすることは、結果的に患者さんを大切にすることにつながるのです」と、米倉院長は強調する。

病院DATA
米倉脊椎・関節病院
東京都足立区葛3-13-14
TEL: 03-3855-4154
URL: http://www.spine-joint-yhp.jp
病床数: 62床(一般22床、回復期40床)



日暮里有明駅より徒歩10分、交通利便性の高い8階建ての病院をのびのびと広げました



フロアごとに内装カラーが変わる。一般病棟は寒色系、回復期リハ病棟は暖色系を採用する



手術室は3階にあり、あみく室として十分な広さを確保した